

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1492000144
法人名	有限会社 ヴァントーズ
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あかね
訪問調査日	平成25年9月25日
評価確定日	平成25年10月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

(株)R-CORPORATION外部評価事業部

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000144	事業の開始年月日	平成24年4月1日	
		指定年月日	平成24年4月1日	
法人名	有限会社 ヴァントーズ			
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あかね			
所在地	(254-0014) カナガワケンヒラツカシシノミヤ 神奈川県平塚市四之宮2丁目22-11			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25名	
		通い定員	15名	
定員等		宿泊定員	8名	
		定員計	名	
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成25年12月17日	
			ユニット数	ユニット

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様、お一人お一人の得意分野や興味のあることを把握し力を発揮できる環境創りに力を入れています。また、利用者間や職員との交流を持ち、信頼関係を深めるため、いろいろな行事を企画し、常に笑顔で楽しく過ごして頂けるよう心掛けています。転倒防止、足腰の筋力維持・向上のため、体操や筋力トレーニングを毎日のメニューに組み入れています。ご家族様とも、情報を共有し、ご本人、ご家族様にとって必要なサービスを提供しています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成25年9月25日	評価機関 評価決定日	平成25年10月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①この施設の経営母体は有限会社ヴァントーズです。ヴァントーズは神奈川県下でこの小規模多機能事業所1か所の運営ですが、関連法人2社で小規模多機能事業所を3ヶ所、グループホーム1か所、介護老人保健施設1か所を加え、広い意味での連携が出来る体制となっています。利用者に幅広い選択をして頂ける利点と併せて、人事・教育面での連携が可能となり、高齢者ケアへの貢献が期待出来ます。この事業所は平塚市中央部に位置し、場所はJR平塚駅からバスで14～5分のところにあります。</p> <p>②設立してから1年余、管理者の運営方針一つ目は「一人ひとりの尊厳を大切に」することであり、いきいきと過ごして頂けるように、そして楽しく過ごして頂けるように努めています。2つ目は「地域との交流と連携で、運営推進会議や自治会にご協力を頂きながら、地域との連携を模索して行きます。実施を開始しはじめたものとしては、I 喫茶の実施：現在は利用者対象にスタートしていますが、これを自治会を通じて一般の方にも利用してもらえよう。II セタの飾り付け：今年、子ども会と合同で飾り付けをし、玄関に飾りました。利用者も一緒に飾りました。来年度も交流も含めて一緒に実施しようと計画しています。III 介護用備品等の貸出：地域の防災訓練に車椅子を貸出を行い、利用体験を職員2人で実演を実施しました。来年度も協力して行きます。IV 地域の子どもとの交流と支援：現在は構想の段階ではありますが、子ども110番の受け入れ、幼稚園との交流、中学生の体験学習の受け入れと認知症キャラバンメイトの子どもへの啓蒙などを考えています。3つ目としては利用者のケアについてです。あまり型にはまったカリキュラムを組まず、大枠として午前は入浴を中心に自由な活動を、午後は全員のレクリエーションを決め、利用者の希望に沿った柔軟なケアに努めたいと考えています。利用者に役割が無いことが生きる意欲の低下に繋がると認識し、キッチンや前述の喫茶のお手伝いなどを曜日を変えながら担当して頂き、活力の源として頂ければと考えています。家庭での役割についてもご家族と相談し、やりたいことを探しています。いきいきと過ごして頂ける、楽しく過ごして頂けるケアを一緒に考えて行きます。</p> <p>③ネットワークについては、ヴァントーズ関連法人の介護老人保健施設「フィヨレ」に関連事業所、管理者、ケアマネ、本部スタッフが集まり、法人代表も出席し、毎月の最終木曜日に集まり、それぞれの事業所が抱えている問題を検討し、共通する項目については水平展開し、各々が向上出来るよう改善、検討を続けて実施しています。この関係では小規模のケアマネジャーが参加しています。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 あかね
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	レ	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	レ	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		レ	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	レ	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		レ	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		レ	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	レ	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	レ	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	小規模多機能型居宅介護の理念、あかねの理念を念頭に入れ、利用者お一人おひとりがその人らしく、笑顔のある在宅生活を目指してサービスの提供を行っている。	あかねの理念を念頭に入れて、利用者一人ひとりがその人らしく、笑顔のある在宅生活ができるよう、パンフレットにも掲載し、日々のケアに当てはめてサービスの提供を行っています。あかねの理念はあべきケアの実現を目指したものであり、全員が利用者第一の気持ちになってケアに当たり、利用者に対する視点の違いをみのがさないよう注意し、個々の想いを汲み取るよう常に心がけています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席頂いている、自治会役員を通して、子供会とのつながりを持ち、毎年、七夕飾りを地域の子供たち一緒に行っている。また、地域の避難訓練では、車いすを貸出し車いすについてのご説明し、車いす移乗体験をして頂いている。今後は地域の方々を対象にした喫茶あかねの開催を予定している。	自治会にはまだ加入していませんが、自治会代表他が運営推進会議にも参加してくれています。地域の避難訓練等には参加し、その際に車いすを貸出し、説明を行ない、移乗体験をして頂く機会をつくりました。ボランティアはレクリエーションの必要性に応じて活用しています。自治会役員を通して、子供会とのつながりが持て、毎年、七夕飾りを地域の子供達と一緒にしています。今後は地域の方々を対象にした「喫茶あかね」の開催を予定しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設1年半に満たなく、現在は施設運営の安定に力を入れている為、地域貢献まだ、できていないのが現状。現在は利用者ご家族に対し、認知症ケアについて、助言をしている。今後、喫茶の日など、行事にお招きし、介護相談も行っていきたくと考えている。介護相談、見学の受け入れは随時、行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の現状報告を行っているが、地域の高齢者の問題点や施設の困難事例を発表し、皆様にご意見を頂いたり、その場で、話し合いを行い、皆で、問題点に取り組んでいる。	運営推進会議2ヶ月に1回、第三木曜日に実施しています。メンバーは自治会代表、真土、四の宮各々の民生委員、地域包括支援センターの方、それに事業所関係者で行っています。事業所の現状報告と取り組み状況の説明を行い、意見を頂き、地域の状況などを聞かせて頂いています。頂いた意見は業務に反映し、次回の会議では成果を報告しています。毎回議事録を作成して、報告するようにしています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小規模連絡会で施設の現状報告をお伝えしているが、個別でも、地域包括と高齢福祉課職員にご協力を頂き、困難事例を相談させて頂いている。施設運営上、わからないことがあれば介護保険課に随時相談させて頂き、ご意見を頂いている。	地域のシステム会議の部会である小規模連絡会（小規模8施設、市、社協等がメンバー）に参加し、施設の現状報告と情報交換を行っています。個別でも、地域包括と高齢福祉課職員にご協力を頂いて、困難事例を相談などさせて頂いています。高齢福祉課には施設運営などについて随時相談しています。地域包括支援センターの研修等の行事にも参加しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、委員会を中心に、話し合いの場を設け、資料を通じて、職員に周知徹底を行っている。また、日々の介護の中でも、移乗や移動時、利用者の自由を拘束していないかなどの確認は随時行い、介護技術のスキルアップを目指している。	身体拘束廃止委員会（この施設からは3人出席）を設置し、委員会を中心に、話し合いの場を設け、職員を中心に、職員に周知徹底しています。また、日々の介護の中でも、どう云うものが拘束なのか、移乗や移動時などに利用者の自由を拘束していないかなど、確認は随時行い、介護技術のスキルアップを目指しています。玄関施錠については、施錠せず、要注意の人からは目を放さないなど心がけています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、委員会を中心に、全体会議等で研修の場を持ち、話し合いを行っている。また、高齢者虐待防止マニュアルを作成し、職員に周知徹底を行っている。常に利用者の身体状況の把握に努めるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に、利用者ご家族様と情報を共有し、施設内での様子も、連絡帳を通して、毎回、お伝えしている。問題があれば担当目ケアマネジャーに連絡を取り、自立支援に取り組んでいる。また、管理者、ケアマネジャーは権利擁護等の研修を積極的に参加し、知識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書、個人情報の同意書等、必要書類の説明をし、ご理解頂いている。また、利用後も、ご家族から、不明点等があれば随時、時間を取り、説明させて頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	送迎時、連絡帳、電話などで常に、ご家族から、ご意見を頂き、全体会議等で話し合い、運営に反映するよう努めている。	ご家族にご意見は、連絡帳や日々の送迎時に、又は電話で情報交換を密に行っています。ケアマネジャーは月1回は介護や健康の状況を報告すると共に相談に乗るようにしています。また、介護計画更新時にはサービス担当者会議を開催し、本人、ご家族にも参加してもらい、介護計画を説明し、ご意見をお聞きしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者情報だけでなく、施設運営にかかわる情報も全体会議で、職員に報告し、意見交換し、今後の運営に反映できるよう心掛けている。	職員の意見は基本的に全体会議で聞いています。会議では利用者情報だけでなく、施設運営にかかわる情報も報告し、今後の運営に反映できるよう心掛けています。個人面談も定期的に行い、得手不得手なども聞いています。キッチンあかねや喫茶の日など、職員と相談しながら利用者に良い事の実践を進めています。グループ内4小規模事業所で会議を持ち、情報交流を行っています。他小規模の研修会の案内を頂き、参加させ、スキルアップに役立っています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間終了後は、10分以内に帰宅する施設の規則を作り、時間内に、仕事が終わる様、スキルアップを図っている。また、仕事の引き継ぎをスムーズに行い、個々に仕事の負担が係らず、施設全体で業務が流れていくような環境創り目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同グループ内の老人保健施設で積極的に研修を行い、関係施設の職員が積極的に参加できる環境を作り、グループ全体での職員教育に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同グループ内での小規模グループホームを毎月1回行い、情報交換、勉強会を行っている。また、市のシステム会議に登録し、他施設との情報交換の場に参加し、研修会、ネットワークづくりを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前の面談で、和やかな雰囲気を作り、笑顔で傾聴し、安心感や、満足のいく関わり、施設利用についてのご説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期のご家族からの相談、契約時の事前訪問等からご家族の不安に思っていることを一緒に考え、ご家族と、施設が協力してご本人の在宅生活を支えていくという小規模多機能居宅介護の意義を理解して頂き、安心感と信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族が、一番不安に思っていることや、何を求めているかを会話の中から、見極めることを心掛けています。また、生活環境や、経済状況も踏まえ、その意向にそったサービスを提案させていただき、ご本人、ご家族にご理解いただき。サービスを開始している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬の気持ちを常に、忘れず、これまでの経験から、多くを学ばせて頂いている。日常のお世話をさせていただきながら、学ばせて頂く持ちつ持たれつ関係を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人がご自宅で家族の中で常に笑顔で過ごされるよう、常にご家族と情報交換をしている。また、細かいことでも相談できるような雰囲気作りをこころ掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設は常に開放しており、仲の良いお友達や、ご親戚の方々がいつでも来れる環境を作っている。また、天気の良い日は、ドライブに出かけ、馴染みの場所や、景色を堪能して頂き季節の花を通して四季を感じて頂いている。	自宅を本拠とし、馴染みの人や場所との関係を継続しつつサービスを利用できることが、小規模多機能の最大のメリットです。利用者は土地勘のある人が多く、昔の事も良くご存じで、知っている道を通ると喜ばれます。地域の人にはこちらから積極的に明るく元気に挨拶をしています。事業所は常に開放し、仲の良いお友達や、ご親戚の方々がいつでも来れる環境を作り、天気の良い日は、頻繁にドライブに出かけ、馴染みの場所や、景色、季節の花などを楽しんで頂いています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが仲介に入り、利用者間の関係がスムーズになる様心掛けている。テーブル配置や、座る席も工夫し、心地よい空間づくりを目指している。レクリエーションでは利用者が一つに慣れるようなゲームや体操を取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用を終了しても、何か、困ったことがあればいつでもご連絡下さいとお伝えしている。地域密着型サービスであるという意識を持ち支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員が情報を共有し、ご本人の得意なことやできること、好きなことややってみたいことなど、日ごろの会話や行動の中から見極め、ご本人の持っている力を引き出せるような支援が出来るよう努めている。	利用者の希望、意向は、日頃の会話の中から吸い上げ、介護記録に記録し、また介護計画作成時には利用者本人に直接聞いたりしています。利用者は家族より職員に心を開いてくれていて、思いが分かります。本人の得意な事や出来ること、好きな事ややってみたい事等、日頃の会話や行動の中から見極め、ご本人の持っている力を引き出せるような、支援が出来るよう努めています。ご家族との関係では明るく積極的な方向で話すよう努めています。ご本人の思いは、1対1になるお風呂やトイレの折に発する言葉を受止めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話の中から、昔のことや、ご本人の胸の内をお話しいただけるような関わりを大切にしている。また、ご家族のお話や、家庭訪問を通して、その方の全体像の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動から、その方の有する力を見極め、小さな変化にも目を向けていくことを大切に考えている。無理強いせず、楽しい雰囲気の中チャレンジできる環境をつくり、できることを増やしていくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度の全体会議で利用者お一人お一人のカンファレンスを行い、全員で課題にどう、取り組むか話し合いをしている。また、ケアプラン変更時はご家族、必要関係者をお呼びし、サービス担当者会議を開催している。ご本人には日常の中で話し合う時間をつくり、心情をくみ取る努力をしている。	毎日の記録や定期的モニタリングに沿い、ケアマネ（2人で分担して）を中心に、月に1度全体カンファレンスを行い、課題を話し合い、現状に即したケアが実践できるような介護計画を作成しています。介護計画変更時にはご家族、必要関係者を交えてサービス担当者会議を開催しています。パソコンには「すこやか」ソフトが組み入れられていて、そのソフトの中にライフ・サポート・プランが組み込まれているので、介護計画はライフ・サポート・プラン方式で作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック、排泄、食事摂取、介護記録に分け、体調管理、日々のケアの個別に記入し、職員は情報を共有し、互いの記録から情報を分析して実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と常に連絡を取り、その状況にあったサービスをご提案し、泊まり、訪問、通いサービスを組み合わせ、利用して頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	配食サービスの利用、訪問マッサージの施術等、必要に応じて、プランたて利用して頂いている。また、認知症の利用者様においては近隣住民に声掛け、見守り等の協力をして頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の変化に職員が敏感に見極め、ご家族に連絡して、受診をお願いしている。また、受診結果も連絡いただき、その後のケアに繋げていくよう、努めている。	基本的にかかりつけ医は今までの自宅での主治医です。本人の変化を職員が敏感に見極め、ご家族と連携しながら受診しています。また、主治医の受診結果はご家族経由で連絡を頂いて、その後のケアに繋げていくよう、努めています。与薬支援は送迎時、昼の食事時でサポートしています。（開業医）があり、本人の主治医、ご家族と連絡が取れない場合に通院対応出来るようになっていきます。歯科は、事業所の裏にある歯科医が協力医となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員も介護職員同様、常に利用者とかかわりを持ち、職場内の職員が情報を共有して看護職員の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のMSWと関係をつくり、利用者様の情報を得ている。また、退院されるときには必ず、看護師、ご家族、とカンファレンスを行い、情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と常に連絡を取り、今後の話し合いをしている。職場内では、研修を行い、職員全員でケアに取り組んでいる。	ご家族やご本人の希望を踏まえながら、ご家族と常に連絡を取り、今後の話し合いをしています。小規模では終末期対応は難しいが、独居の人の場合の対応、ターミナル医とのコンタクトなど個別の課題があり、個々に対応をして行く必要があります。事業所として緊急時対応に関するマニュアルを作っています。ターミナル等については職場内で研修を行い、職員全員で取り組んでいく予定です。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、全体会議で職員全員に周知している。また、医療分野の知識も勉強会等で、学ぶ機会を設け、実践に生かせるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所独自での防災訓練を年に2回行っている。また、地域の防災訓練にも職員が参加し、実践力を身につける努力をしている。	事業所独自での防災訓練は年2回実施し、地域の防災訓練にも職員が参加し、実践力を身につける努力をしています。町内会とは備品の車椅子、発電機、消火器等の相互貸出の話はしています。備蓄については3日分程度の食料(α米など)、水などを用意しています。ガスこんろなども準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇は常日頃から、全体会議で研修を行い、周知している。お一人おひとりの人格を尊重し、人生の先輩であるということを常に念頭に置き、言葉遣いに気を付けている。	ケアされる利用者は様々な経験を経てこられた人生の先輩であることを常に心に置き、一人ひとりの人格の尊重と尊厳の維持をもって対応するよう心がけ、言葉遣いに充分気を付けています。また、勉強会を定期的に行い、馴れから利用者の誇りやプライバシーを損ねないように気を付けています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定とは何かを全体会議で話し合い、実際に自己決定が出来るか考える機会を設けている。また、半年に1度管理者との個人面談でも職員一人ひとりにケアについて、話し合いを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、常に利用者様の表情を把握し、その方に合ったペースでケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思を尊重し、その方らしきが出るように一緒に洋服を選び、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に、喫茶の日を設けたり、利用者と職員と一緒に食事を作る日を設け、食事を楽しんでいる。また、食前のテーブル拭きや、食器洗浄、食器拭きもできる方をお願いして一緒に片付けている。	外から発注する宅配クック（ご飯と汁物のみ作る）を活用しています。定期的に、喫茶の日を設けたり、食事レクリエーション（毎月1回）を設け、利用者と職員と一緒に食事を作る事を楽しんでいます。食事だけでなく「作る楽しみ」を味わって頂くため、おやつレクでケーキを作ったり、キッチンあかねでは利用者に食べたいものを聞いて、天ぷらを揚げて天ぷらうどんを作る等、全員喜んで楽しい食事ができています。お誕生日会では手作りのケーキも作ります。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事摂取量を主食、副食に分け記録し、摂取状況を常に把握している。水分量の少ない方や水分制限をされている方は、水分摂取量も記録している。水分摂取の少ない方には、1日のトータルをだし、水分摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、必ず口腔ケアを励行し、職員が付き添い、利用者の状況を把握している。外出時にも必ずうがいをして頂くよう習慣付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を記録し、個別の排泄パターンを把握し、見守り誘導を行っている。また、ご家族と連絡帳でご自宅での排泄状況を連絡しあい、体調管理に気を付けている。	基本的には自立支援の方針で、トイレに行って座って頂くことにしています。病院に入院すると、基本的にオムツ着用になってしまうので、オムツを外すためトイレに座って頂くことなど工夫をしています。本人の排泄状況、排泄パターンを把握する為、排泄チェック表に記録を行い、施設に居る間は、個々の排泄パターンを把握し、誘導しています。訴えない方も出来る限りトイレで排泄できるよう時間を見てトイレ誘導を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方は常に排泄記録を見ながら、水分不足にならないよう気を付けている。また、朝食時、ヨーグルトを提供したり、食物繊維の多い食事やおやつを提供している。レクリエーションでは体を使い、朝、午後の体操では腹筋を使うような体操を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お湯の温度や、希望を配慮し、個々の状況にタイミングを合わせて声掛け誘導している。同性介護希望の方や、お一人で入りたい方などできる範囲で対応している。	この事業所では社長の想いを生かし、檜風呂が2槽、1槽にはリフトが装備されています。利用者檜風呂は好評で、此处を選択した理由が檜風呂と云う人もいる位で、利用後は利用者の皆さんが満足しています。お湯の温度などの希望を配慮し、個々の状況にタイミングを合わせて声掛けをして誘導しています。同性介護希望の方や、一人で入りたい方など、出来る範囲で対応しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自宅にいるときと同じく、その方がありのままの生活をされるよう、環境を整え、室温や、寝具のご希望もお聞きし、気持ちよく休まれるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている、薬事書を個人ファイルと薬事書のファイルを作り、いつでも、職員が見られるようにしている。新しい薬が追加になったときは薬事書を更新し、連絡帳に記載して、周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意なこと、できること、やりたいことを把握し、その方に合った、レクリエーションや作業を考え、提供している。得意な分野でのお手伝いをしてもらい、日々の生活に喜びと楽しさを感じて頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のお天気や利用者の希望に沿って、ドライブをこまめに出かけている。今後は外食も考えている。	その日のお天気に応じて事業所周辺の散歩、ドライブなどもこまめに行っており、利用者の活気に繋がっています。ドライブは半日程度、本人から行きたい所などの意見が出れば出かけています。日曜日は利用が少ないので良くドライブに出かけています。紫陽花、あやめ、大磯の蓮などを見に行っています。今後は外食レクも考えていますが、費用（実費分）についてご家族に相談する必要があると考えています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通いサービスでは原則、現金の持ち込みは禁止しているが、お財布を持っていないと不安な方はご家族と話し合いをして、最小限の金額にして頂いている。訪問サービス時の買い物ではご自分で支払いが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	泊まりサービスご利用の方で、不安になったりされる場合はご家族に手紙を用意して頂いている。帰宅願望が強い方は、電話をしたり、ご家族に面会に来て頂いて、安心して過ごして頂くよう努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は毎日掃除をし、清潔を保持している。リビングには花や利用者の作品を飾り、居心地よい空間づくりを工夫している。外にはプランターで花を育てたり、畑で花や野菜づくりもしている。	事業所内は毎日掃除をし、清潔を保っています。リビングには花や、利用者の作品、写真などを飾り、居心地の良い空間作りを工夫しています。飾りつけ等、幼稚的なことは、ご家族の気持ちも考慮して禁じ、大人の飾り付けを心がけています。清潔、臭い、湿度、温度、風通し等も注意しています。記録台をフロアの一角に置き、日動リーダーが座り、全体を見渡せるようにしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合った方同士が座れるよう座席に配慮している。また、一人で休みたいと希望される方には個室を用意し、ゆっくり休んで頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方使い慣れた寝具や、壁飾りなどでゆっくり安心して休んで頂ける空間を工夫している。	泊りの部屋は利用者が寛げるように、出来る範囲で対応に努めています。その方の使い慣れた寝具や、壁飾り等、ゆっくり安心して休んで頂ける空間を工夫しています。原則、共用の居室なので大物は持ち込まず、普段ご自宅で使用されている馴染みのある小物を少々持って来て頂き、安心してお休みできるように配慮しています。和室はどうしてもベッドが使えない方用に利用しており、普通はお茶の部屋、お雛様などを飾る部屋として活用しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入退所時はご自分で安全に靴を履いて頂けるよう椅子を用意したり、入浴時の衣服の着脱がしやすいように脱衣籠の大きさを工夫している。施設内では手すりや、机の配置に工夫をし、掴まりながらほころびできるように工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

小規模多機能型居宅介護施設
あかね

作成日

平成25年12月15日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	事業所の力を活かした 地域貢献	地域の方々に、認知症を 理解していただき、地域 で高齢者を支える体制を 創る。	施設を開放し、近隣の 方々に見学して頂く。 又、認知症についてや、 介護保険の仕組みなど、気 軽に相談できる施設体制を 整える。	1 2 か月
2	12	重度化や終末期に向け た方針の共有と支援	ご本人、ご家族の意向を 第一に考え、最後まで安心 して生活出来る環境を つくる。	日頃から、ご家族と終末期 について話し合いをし、施 設全体で取り組みを行う また、職員の研修中でも重 度化や終末期について取り 上げ勉強する。	1 2 か月
3	7	本人と共に支え合う 家族との関係	ご本人が、ご家庭でいきい きと、充実感をもって過 ごして頂く。	ご本人のできること、やり たいことを見極め、ご家族 様と情報共有し、日々の 生活をいきいきと過ごして いただけるように支援す る。	1 2 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。